

第2学年 国語科学習指導案

児童 男5名 女6名 計11名
指導者 山内 勲

- 1 研究主題 確かに読み取る力を育てる指導のあり方
- 読むことの系統性をおさえた指導（一人学び・学び合い）を通して -
- 2 単元名 『だいじなところに気をつけて読もう』
(教材名 「サンゴの海の生きものたち」)

3 単元について

(1) 児童について

児童は、2年生になって説明的文章を読むことの学習として、「たんぼぼのちえ」で、時間的な順序、理由の説明の順序などを考えながら内容の大体を読み取る学習をした。また、「スイミー」では、挿絵などから場面の様子を想像しながら読む学習をしてきた。多くの児童は意欲的に楽しんで読もうとしているが、書かれている事柄の順序を正確に読み取ったり、場面の様子や登場人物の気持ちなどを想像して読んだりすることについては、十分に身につけているとは言えない。また、文章を最後まで読まずに、自分の都合のよいように読んでしまう児童も見られる。

7月実施の意識調査では、国語の学習について75%の児童がプラス意識をもっている。また、説明文の学習については、83%の児童がプラス意識をもっているという結果が出ている。

また、事前テストの結果は、正答率77%である。本時の一時間前に学習する「イソギンチャクとクマノミの関係」の段落について行った。問題文をそのまま虫食いにした問題は良くできていたが、文章を短くしたりまとめたりして答える問題、つまり、大事な所を整理しながら読み取る問題の正答率が低かった。

(2) 教材について

第1・2学年における「C読むこと」の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気づきながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」である。児童はこれまでに、「たんぼぼのちえ」で時間的な順序に気をつけて内容の大体を読むことを学習しているが、ここでは生き物の違いに応じた共生の方法を順序立てて説明した文章を読む学習をする。この学習が更に2年下「一本の木」へとつながっていく。

本教材は、典型的な説明文の形式をもち、四つの部分で分かり易く構成されている。第一・第二段落で話題を提示し、第三段落から第六段落にかけて一つ目の例、第七段落から第九段落にかけて二つ目の例を出して説明し、第十段落で話題に対する結論をまとめている。第三段落からの説明では、それぞれの生き物の体の仕組みと、それによってお互いがどのような利益を得ているのかを順番に述べている。したがって、専門用語や生き物たちの名前が多く出てきているにもかかわらず、2年生でも比較的理解し易い構成になっており、説明の順序に気をつけながら内容の大体を読むことができる教材である。

(3) 指導について

イソギンチャクとクマノミ、ホンソメワケベラと大きな魚は、お互い守り合ったり、助け合ったり、役立ち合ったりしながら生きている。指導にあたっては、そのような共生の世界が生き物の中にもあることを知らせ、知識を獲得させたり、読解力をつけさせたりすることは勿論であるが、この教材を読むことを通して、児童が素直に驚いたり共感できたりと、心情的にも豊かに読み進められるように心がけていきたい。

一人学びでは、ワークシートを用いて、書かれている言葉一つ一つに注目させ、正しく読み取らせていきたい。また、大事なところを整理しながら読み取らせたい。学び合いでは、写真を見て更に想像を膨らませたり、生き物のペープサートを使わせたりして、読み取った内容を更に深めさせていきたい。また、読み取った内容をお互いに確かめ合うことができるように、自分たちが海の生き物になって説明したり動作化したりする活動を文章の記述に合わせて繰り返し行わせ、読みを更に深めさせていきたい。

4 単元の目標

(1) 関心・意欲・態度

海の生き物の共生関係や、説明文の組み立てに興味をもって読もうとしている。

(2) 読むこと

「サンゴの海の生きものたち」が互いに役立っていることを、事柄の順序を考えながら読む。(イ)
語や文のまとまりや内容、言葉の響きなどについて考えながら声に出して読む。(エ)

(3) 言語に関する目標

片仮名を読んだり書いたりし、片仮名で書く語を文や文章の中で使う。(イ(ア))

5 単元の評価規準(身につけさせたい力:基礎・基本)

	関心・意欲・態度	読むこと	言語事項
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 海の生き物のかかわりについて説明されている事柄に関心をもち、自分の体験を想起したり、想像を膨らませたりしながら楽しんで読もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生き物について書かれた本に興味をもち、読書の範囲を広げて読む。 説明の順序に気をつけながら、サンゴの海の生き物たちの様子やかかわり方について読む。 事柄のまとまりについて、叙述に即し、自分の想像を広げながら内容の大体を読む。 声に出して、ひとまとまりの語や文として読んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名や片仮名を正しく、はっきりとした発音で読む。 当該学年までに配当されている漢字を正しく読む。 指示語や接続語、理由を述べる語句の使い方に気づく。 文末表現に注意して、敬体で書かれた文章の文体を意識する。

6 指導計画と評価規準(全10時間)

段階	学習活動	時間	評価規準		
			関心・意欲・態度	読む	言語事項
一次	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の写真を見て想像を膨らませる。 本文の範読を聞き、感想を発表する。 	1	写真を見て、想像したことを進んで発表しようとしている。生き物について興味をもって読もうとしている。	ひとまとまりの語や文を意識しながら音読することができる。	既習の漢字などを適切に使いながら、感想文を書く。
	<ul style="list-style-type: none"> 学習のめあてを確認する。 新出漢字を練習する。 	1	進んで学習のめあてを考え、新出漢字を覚えようとしている。	段落に書かれていることに注意しながら読むことができる。	新出漢字を覚え、進んで練習する。
二次	<ul style="list-style-type: none"> イソギンチャクとクマノミがどんな生き物か読み取る。 	1	イソギンチャクとクマノミについて興味をもって読もうとしている。	イソギンチャクとクマノミの体の仕組みを読み取ることができる。	敬体の文末表現を意識している。
	<ul style="list-style-type: none"> イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読み取る。 	1	イソギンチャクとクマノミのかかわり合いについて興味をもって読もうとしている。	イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読み取ることができる。	敬体の文末表現を意識している。
	<ul style="list-style-type: none"> ホンソメワケベラの体の様子、大きな魚に食べられない訳を読み取る。 	1	ホンソメワケベラの体の様子、大きな魚に食べられないわけについて興味をもって読もうとしている。	ホンソメワケベラの体の様子、大きな魚に食べられないわけを読み取ることができる。	「でも」の逆接の文を意識している。
	<ul style="list-style-type: none"> ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを読み取る。 	1	ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いについて興味をもって読もうとしている。	ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いについて読み取ることができる。	敬体の文末表現を意識している。

三 次	ま と め る	・最後の段落を読み、生き物たちのかかわりを振り返る。	1	生き物たちが助け合って生きていくことについて興味をもって読むようとしている。	生き物たちのかかわり合いが、生きていくための工夫であることを読み取ることができる。	指示語「このように」の働きを意識している。
四 次	ひ ろ げ る	・ブックトークを聞く。	1	海の生きものに関連したブックトークを進んで聞こうとしている。		敬体で書かれた文章に慣れる。
		・生き物についての本を読む。	1	生き物に関心を持ち、本を進んで読むようとしている。	自分の知りたいことについて進んで読むことができる。	主語と述語に気をつけて内容を読む。
		・本を読んだ感想をまとめる。 ・おもしろかった本を紹介する。	1	本の感想を進んで書こうとしている。	読み取った内容について、自分の考えを表現することができる。	平仮名や片仮名や漢字を正しく使う。

7. 本時の指導

(1) 目標

ホンソメワケベラの様子について関心を持ち、想像を膨らませながら読む。(関心・意欲・態度)

ホンソメワケベラの様子と、大きな魚に食べられない訳を読み取ることができる。

(読むこと イ)

逆接の関係を示す「でも、～ありません。」に注意して読む。(言語事項)

(2) 具体的評価規準と手だて

	A：十分満足	B：概ね満足	C：努力を要する
読 む こ と	ホンソメワケベラの様子(色・模様・大きさ)と、それが大きな魚に食べられない訳について読み取り、自分なりに感想や疑問をもつ。	ホンソメワケベラの様子(色・模様・大きさ)と、それが大きな魚に食べられない訳について読み取ることができる。 (「体や口の中についた虫」「とって、きれいにそうじしてくれる」を使ってまとめることができる。)	穴空きのワークシートにまとめさせる。

(3) 本時の授業仮説(研究主題との関連)

一人学びで、ワークシートを用いて様子や訳の分かる言葉などにサイドラインを引いて抜き書きをさせ、魚の様子とその訳をとらえさせ、学び合いでは、つかんだ内容をもとに写真を見ながら想像を膨らませたり、ペープサートを用いて動作化させたりすることにより、事柄の順序や場面の様子に気づきながら確かに読み取ることができるであろう。

(4) 展開

段階	学習内容・子どもの活動	時間	教師の働きかけ・評価 (主発問・留意点 個別の支援 評価)
みとおす	1 前時を想起する。 2 本時の課題を把握する。 ホンソメワケベラは、なぜ大きな魚に食べられないのでしょうか。	3分	<ul style="list-style-type: none"> ・イソギンチャクとクマノミの関係について読み取ったことを確認する。
ふかめる	3 読みの見通しをもつために音読する。 (一斉読) (p.73 l.11~p.75 l.1) 4 各々の視点に沿って読み深める。 ・範読 (一人学び) 5 とらえたことをもとに学び合う。 (学び合い)	3分	<p>ホンソメワケベラの体の様子が書いてあるところに気をつけて読みましょう。 ホンソメワケベラの体の様子に関心をもって読んでいたか。</p> <p>ホンソメワケベラの体の様子が分かるところにサイドラインを引きましょう。 ・教師が範読している時に、サイドラインを引かせる。 サイドラインが引けない児童には、2つの段落のうちで、どちらに体の様子が書いてあるかを探させる。 サイドラインを引いた所を確かめましょう。 ホンソメワケベラの体の様子を音読しましょう。</p> <p>写真のホンソメワケベラは、何をしているのでしょうか。 ・写真に注目させ、ホンソメワケベラが大きな魚の口の中に入っていくことをつかませる。 大きな魚の口の中に小さな魚が入っていったら、どうなるでしょう。 ・「スイミー」での学習を想起させ、普通ならどうなるかという視点で、ホンソメワケベラの行動が不思議な行動であることを認識させる。 ・逆接の関係「でも」に気づかせる。 ホンソメワケベラが大きな魚に食べられない訳が分かる所にサイドラインを引きましょう。 ・サイドラインによって、大きな魚たちはホンソメワケベラが体や口の中をきれいに掃除してくれるのを知っていることをとらえさせる。 サイドラインが引けない児童には、訳が書かれている文には、「から」や「のです」が使われていることを思い出させる。 ホンソメワケベラが大きな魚に食べられない訳を音読しましょう。</p> <p>大きな魚がホンソメワケベラと一緒にいると良いのはどうしてでしょう。 ・大きな魚の立場で、本文と写真を結びつけたり、ペープサートを用いたりして、ホンソメワケベラの「そうじ」について読み取らせる。 ホンソメワケベラの体の様子に関心をもって読んでいたか。 学び合いのまとめとして、もう一度ホンソメワケベラが大きな魚に食べられない訳を音読しましょう。</p>

まとめる	6	つかんだことをまとめ、感想を書く。	10分	自分でまとめられない児童には、虫食いのヒントカードを配布する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ホンソメワケベラが大きな魚に食べられないのは、大きな魚たちが、体や口の中について虫を、ホンソメワケベラがとって、きれいにそうじしてくれるのを知っているからです。</p> </div>			
7	まとめの音読 (一斉読)	ホンソメワケベラが大きな魚に食べられない訳をまとめることができたか。		
8	自己評価	ホンソメワケベラが大きな魚に食べられない訳を振り返りながらまとめの音読をしましょう。		
9	次時の学習内容を知る。	四段階の評価をさせる。時間がある児童には、一言感想も書かせる。		
		次の時間は、ホンソメワケベラと大きな魚の関係について学習します。		

(5) 板書計画

大きな魚

- ・ 体や口の中についた虫を、ホンソメワケベラがとってきれいにそうじしてくれるのを知っている

絵

でも、食べられることはありません。

ホンソメワケベラ

- ・ うつくしい魚
- ・ 明るい青色の体
- ・ 頭からしっぽにかけて黒いすじが一本ある
- ・ 体の長さは、十二センチメートルほど

サンゴの海の生きものたち もとかわ たつお

どうして、ホンソメワケベラは大きな魚に食べられないのでしょうか。

ホンソメワケベラが大きな魚に食べられないのは、大きな魚たちは、体や口の中についた虫を、ホンソメワケベラがとって、きれいにそうじしてくれるのを知っているからです。